

# 「子どもがつくる“弁当の日”」実践活動に関する 中学生の取り組みの実態 ～学年ならびに男女の相違分析～

**Current condition survey on how the junior high school students are dealing with the  
practical activity "BENTO NO HI" - Difference analysis of grade, boy and girl student -**

西川 友子・伊豆田 義人

Tomoko Nishikawa and Guido Izuta

## 要旨

本研究では、「子どもがつくる“弁当の日”」と呼ばれる活動の実践を行った中学生の取り組みの実態に関する学年間の横断的な分析ならびに各学年の男女の取り組み状況の相違についての分析を行った。その結果、今回の活動では、学年が上がるにつれて主食作りやおかず作りなどに、あまり積極的に取り組まれていない実態が明らかとなった。また、各学年の男女の取り組みの相違については、男子生徒よりも女子生徒の方が、主食作りやおかず作りなどに積極的に取り組んでいることが分かった。

**キーワード：**弁当の日、弁当作り、食育、中学生、相違分析

## 1 序論

現在の学校教育現場では「子どもがつくる“弁当の日”」と呼ばれる活動を実践している学校がある。この活動は、平成13年度に香川県綾南町立滝宮小学校（現・綾川町立滝宮小学校）の竹下和男校長（当時）が始めた活動に端を発している<sup>[1][2]</sup>。開始から既に14年もの月日が経過しているが、一時のブームで終わらず、今もなお、学校教育現場で続く息の長い活動となっている。2015年11月3日現在で、「子どもがつくる“弁当の日”」実践校は、47都道府県1715校に達している<sup>[3]</sup>。

「子どもがつくる“弁当の日”」の活動の特徴は2つ考えられる。一つは、食育を実践しながら子どもたちの生きる力を育てている点である。二つ目は子どもの自己肯定感を高めている点である。この活動では子どもたちは献立作りから買い物、調理、弁当箱に詰める、そして最後の後片付けまでを自分自身の手で行う<sup>[2]</sup>。子どもたちは活動を通して、自分にとって、「食」や「食事」はどうあるべきなのか等を自分なりに考えるようになっていく。また、自分一人で弁当を作り上げることができたと感じることができ、これにより自己肯定感を高めていくことができる。

「子どもがつくる“弁当の日”」の活動経験は一時の学校行事という捉え方だけではなく、成長して大人になった時に本活動を振り返ると、「弁当の日」の経験が非常に役に立ったという声が聞こえている。さらに、家族の関係性の側面から捉えた場合でも、「家族」を形成する自分や生徒の保護者がそれぞれの立場から「家族」のあり方やその関係性を見直すきっかけとなっている<sup>[4]</sup>。

さて、新潟県三条市では、平成22年度より「子どもがつくる“弁当の日”」の実践活動に取り組んでいる<sup>[5]</sup>。先行研究では、三条市立中学校1校を対象にして「子どもがつくる“弁

当の日”実践活動における生徒達の弁当作りの取り組み実態が明らかにされている<sup>[6]</sup>。しかし、分析の対象を生徒全員としており、学年ならびに男女の相違についての報告は行われていない。そこで、本研究では、「こどもがつくる“弁当の日”」実践活動における生徒達の弁当作りの取り組み実態の学年ならびに男女の相違について明らかにした。本稿では、その研究成果の報告を行う。

## 2 方法

### 2.1 データ収集

筆者は、事前に新潟県三条市に所在するI中学校の教頭にアポイントメントを取り、2015年8月24日に、I中学校を訪問して教頭と面談した。面談の場において、アンケート調査実施についての同意を得た。

### 2.2 調査対象者

アンケート調査の実施は、「子どもがつくる”弁当の日”」実践活動当日の2015年9月8日の終学活の時間に参加していた生徒全員を対象に実施した。

### 2.3 質問紙調査の内容

#### 1) 属性に関する質問項目

学年、クラス番号、出席番号、性別、食物アレルギーなどの食べ物に対する制限を尋ねた。

#### 2) 弁当作りに関する質問項目

弁当を作った人物、生徒自身による弁当の主食やおかず作りの様子、簡単な手伝いの実施の様子について尋ねた。また、自由記述式の設問を設け、生徒たちが弁当作りの活動を通しての感想を尋ねた。

### 2.4 分析方法

分析は、質問ごとに学年別および男女別にクロス集計を行った。

## 3 結果

本節では、下記の母集団のデータの集計結果を示す。

学年	男子	女子	未回答	総計
1年生	74	68	2	144
2年生	92	84	1	177
3年生	77	87		164
総計	243	239	3	485

ここでは、学年間の横断的な分析のほか、学年の生徒を「女子」と「男子」グループに分け、それぞれのデータをも分析している。なお、回答者数は上記の表ではあるが、未回答の項目のものが数名存在していたため、それらは集計対象からは除外している。

### 3.1 弁当作りに関わった人

問3の「お弁当は誰が作りましたか」の回答は複数可能であった。ここでは、第一の選択肢の結果を分析する。ここでの設問では、生徒が一人で弁当作りなどを行ったか否かを確認するのではなく、生徒が何らの形で弁当作りに関わったかどうかということ在意図している。

図1から図3は、1学年から3学年の集計結果を表す。「1 あなた自身」の割合は75.7% (1年)、68.6% (2年)、46.0% (3年)である。また、「2 母」の割合は、それぞれ、24.3%、29.7%と47.2%である。「3 父親」は1.7% (2年)と1.8% (3年)で、「4 祖父母」は1.8% (3年)、「7 その他」は3.1% (3年)である。学年が上がるにつれ、「あなた自身」の割合も減り、弁当作りに関わる人も多様化している。

各学年の女子の回答は、図4から図6に示す。「1 あなた自身」と回答した1年生の女子は80.9%、2年生は74.7%、3年生は59.3%である。「2 母親」の割合は、19.1% (1年)、25.3% (2年)、37.2% (3年)である。また、他の学年とは異なり、3年の女子の1.2%が「4 祖父母」を、2.3%が「7 その他」と回答した。「1 あなた自身」において、1年と2年との差は6.2%で、2年と3年のそれは21.6%であり、顕著な開きが確認できる。このような傾向が見られたにも関わらず、全ての学年において、「1 あなた自身」は女子生徒の半分以上であった。

男子の回答の集計は、図7から図9に示している。1年生の71.6%、2年生の62.6%と3年生の31.2%が「1 あなた自身」と回答した。「2 母親」の割合は、28.4% (1年)、34.1% (2年)、58.4% (3年)である。「3 父親」の割合は、3.3% (2年)と3.9% (3年)であり、1年生の回答には存在しないものである。また、3年生の男子には「4 祖父母」(2.6%)と「7 その他」(3.9%)の回答がある。また、2年生と3年生における「1 あなた自身」と「2 母親」の比は反転していて、3年生における「1 あなた自身」の割合は、大きく半数を下回った。

なお、男女の回答を比較すると、男子には「3 父親」の回答が2年生から見られるようになることが特筆に値する。

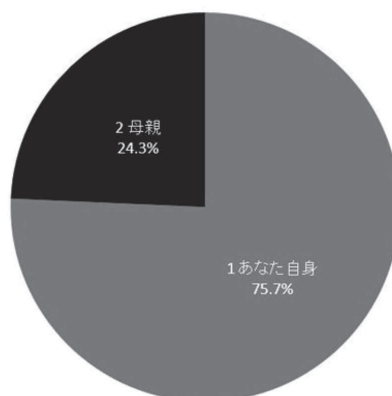


図1 「生徒が手伝ったかどうか」  
(1年・全体)

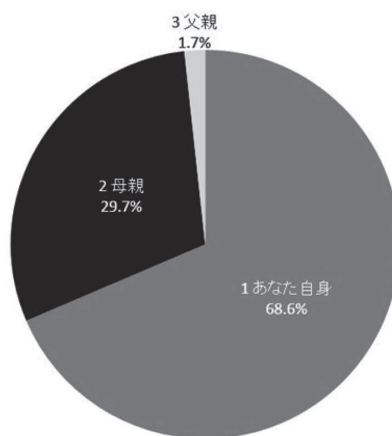


図2 「生徒が手伝ったかどうか」  
(2年・全体)

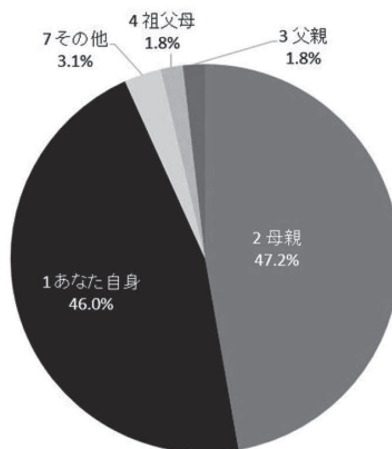


図3 「生徒が手伝ったかどうか」  
(3年・全体)

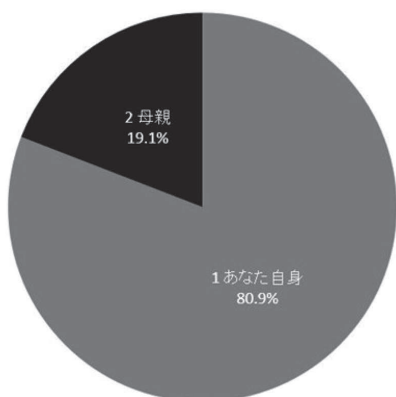


図4 「生徒が手伝ったかどうか」(1年・女子)

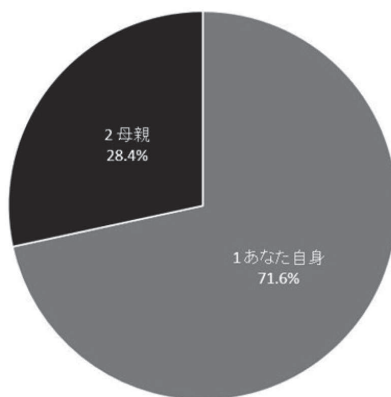


図7 「生徒が手伝ったかどうか」(1年・男子)

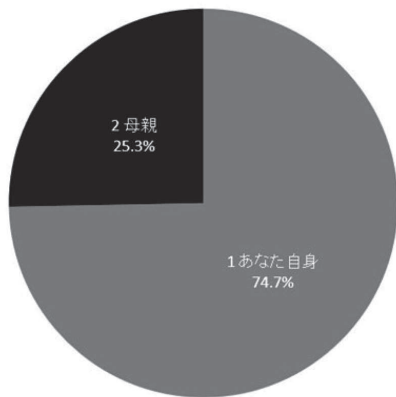


図5 「生徒が手伝ったかどうか」(2年・女子)

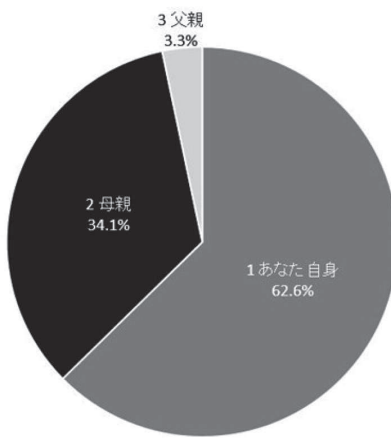


図8 「生徒が手伝ったかどうか」(2年・男子)

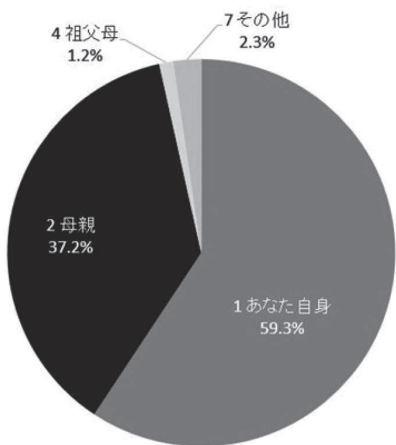


図6 「生徒が手伝ったかどうか」(3年・女子)

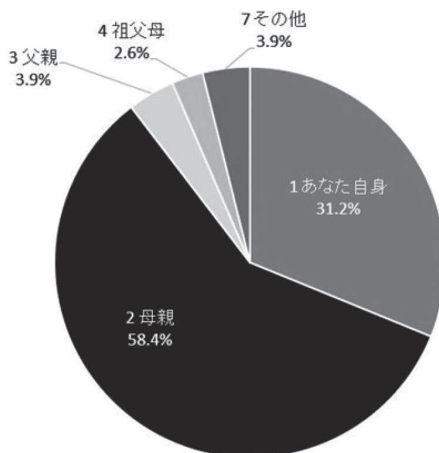


図9 「生徒が手伝ったかどうか」(3年・男子)

### 3.2 弁当作りに関わった人に関する複合回答（第一の回答の後に選択した回答の内訳）

ここでは、問3の「お弁当は誰が作りましたか」の内訳を分析する。グラフの横軸は第一の回答を意味する。そして、第二の回答は積み上げ棒グラフの形で表現されている。また、横軸の見出しと積み上げ棒グラフの項目が等しいときは、その人が一人で弁当を作ったとみなす。

図10は1年生のクロス集計を表す。生徒が一人で作った、つまり、「1 あなた自身」かつ「1 あなた自身」の割合は16.7%で、「1 あなた自身」かつ「2 母親」と一緒に作ったのは55.6%である。一方で、母親が一人で作った場合にあたる「2 母親」かつ「2 母親」の割合は24.3%である。

図11は2年生の結果である。「1 あなた自身」かつ「1 あなた自身」の割合は8.6%で、「1 あなた自身」かつ「2 母親」と一緒に作ったのは57.7%である。母親が一人で作った（「2 母親」かつ「2 母親」）の割合は28.6%である。

なお、図12は3年生の回答である。「1 あなた自身」かつ「1 あなた自身」の割合は13.5%であり、「1 あなた自身」かつ「2 母親」の割合は31.9%で、「2 母親」かつ「2 母親」の割合は45.4%である。

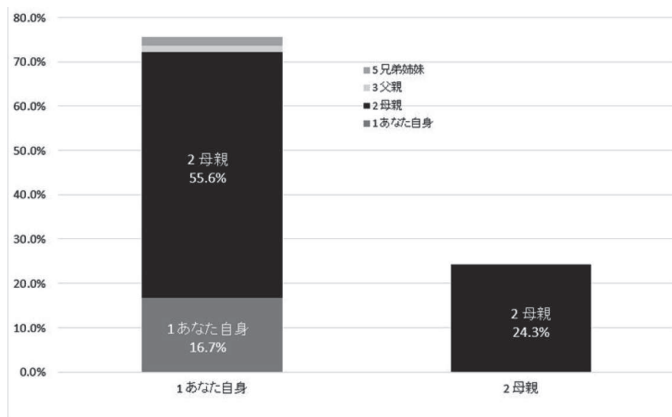


図10 〈問3〉に対する第一・第二の回答のクロス集計(1年・全体)

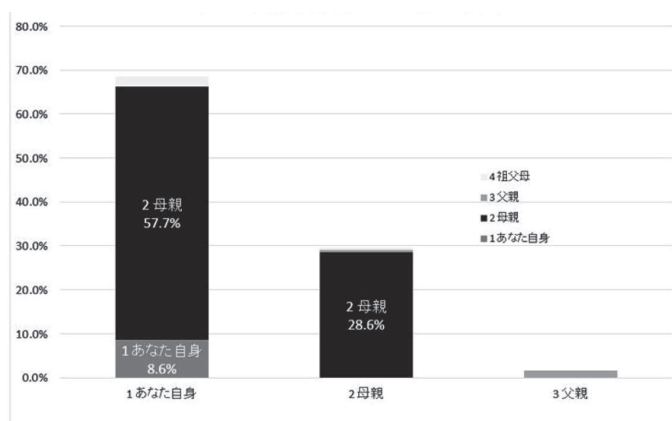


図11 〈問3〉に対する第一・第二の回答のクロス集計(2年・全体)

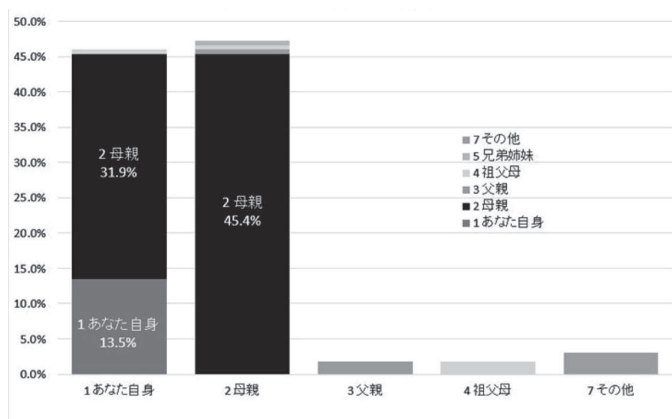


図12 〈問3〉に対する第一・第二の回答のクロス集計(3年・全体)

ここでは、女子の内訳を考える。図13は1年生のクロス集計を表す。生徒が一人で作ったことを表す「1 あなた自身」と「1 あなた自身」の組み合わせの割合は20.6%で、「1 あなた自身」かつ「2 母親」の割合は55.9%である。また、母親が一人で作ったことを意味する「2 母親」かつ「2 母親」の割合は19.1%である。

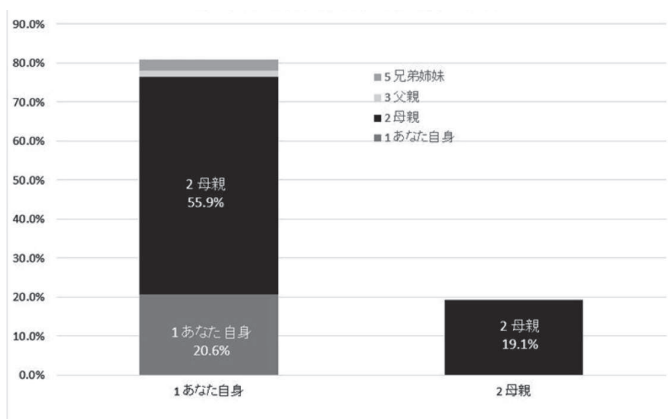


図13 〈問3〉に対する第一・第二の回答のクロス集計(1年・女子)

2年生の結果は図14に示している。「1 あなた自身」かつ「1 あなた自身」の割合は9.6%で1年生の半分以下である。「1 あなた自身」かつ「2 母親」の割合は61.4%であり、1年生に対し5.5ポイント高かった。「2 母親」かつ「2 母親」の割合は24.1%で、1年生に対し5%上回った。

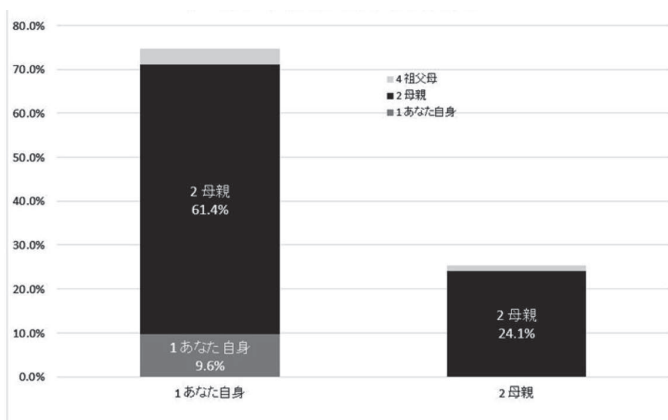


図14 〈問3〉に対する第一・第二の回答のクロス集計(2年・女子)

図15は3年生の回答である。「1 あなた自身」かつ「1 あなた自身」の割合は15.1%で、1年生と2年生の割合の中間に位置した。「1 あなた自身」かつ「2 母親」の割合は44.2%で、こちらも1年生と2年生の間の数値になっている。「2 母親」かつ「2 母親」の割合は36.0%で、女子三学年の間では、もっとも高い水準を記録した。さらに、3年生には、「4 祖父母」と「7 その他」がある。「4 祖父母」については祖父母が一人で作ったことを意味している。なお、全ての学年において、割合が少ないので、ここでは陽に取り上げていない。

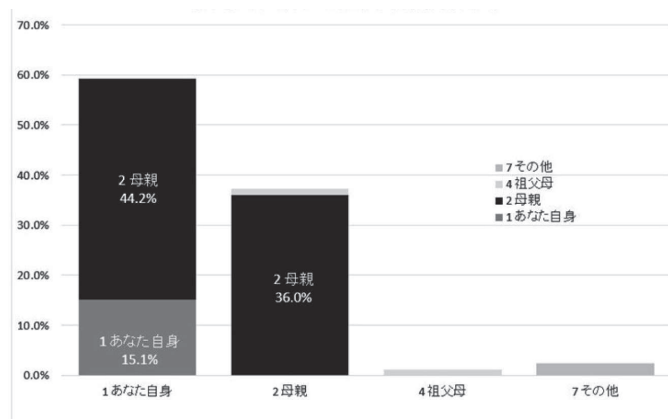


図15 〈問3〉に対する第一・第二の回答のクロス集計(3年・女子)

ここでは、男子の内訳を解析する。図16が示すように1年生においては、「1 あなた自身」かつ「1 あなた自身」の割合は13.5%で、「1 あなた自身」かつ「2 母親」の割合は55.4%である。「2 母親」かつ「2 母親」の割合は28.4%である。

図17は2年生の結果である。「1 あなた自身」かつ「1 あなた自身」の割合は7.7%で、1年生の割合の約半分になっている。「1 あなた自身」かつ「2 母親」と一緒に作ったのは53.8%で、1年生より1.6ポイント低かった。母親が一人で作った、つまり、「2 母親」かつ「2 母親」の割合は33.0%で、学年の3分の1を占めている。「3 父親」が一人で使ったケースもあったが、これは5%にも満たない。

図18は3年生の回答である。「1 あなた自身」かつ「1 あなた自身」の割合は11.7%であり、1年生より1.8ポイント低い値にはなっているが、2年生よりは4ポイント高い値である。「1 あなた自身」かつ「2 母親」の割合は18.2%で、3学年の中では最も低い数字になっている。「2 母親」かつ「2 母親」の割合は55.8%で、学年の半分以上の男子を意味している。また、これは、1年生の約2倍の値に相当する。「3 父親」、「4 祖父母」と「7 その他」という回答もあったが、これらは、学年の男子の5%程度である。

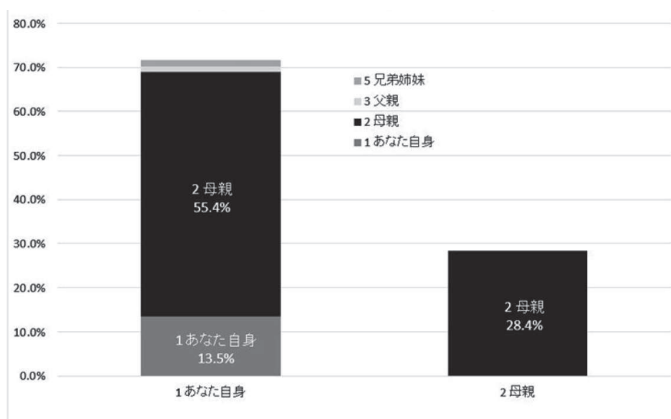


図16 〈問3〉に対する第一・第二の回答のクロス集計(1年・男子)

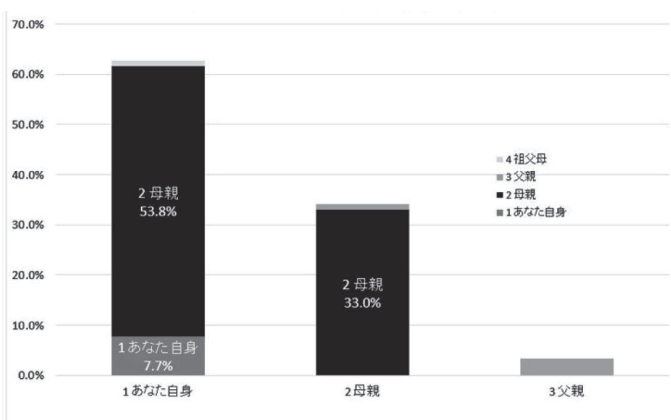


図17 〈問3〉に対する第一・第二の回答のクロス集計(2年・男子)

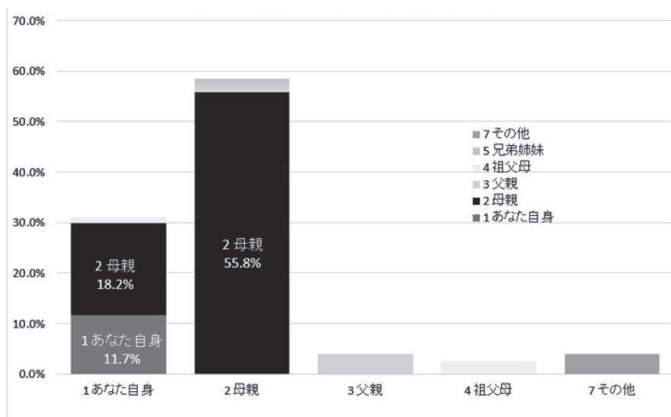


図18 〈問3〉に対する第一・第二の回答のクロス集計(3年・男子)

### 3.3 主食作りの取り組み

問4の「主食をあなた自身で作りましたか」では、主食作りへの生徒の関わり具合を調査した。

図19から図21によると、一人で主食を作り「1 はい」と回答した生徒の割合は32.6%（1年）、18.6%（2年）と18.9%（3年）である。「2 いいえ。しかし、手伝いました」は36.1%（1年）、38.4%（2年）、19.5%（3年）で、「3 全く作っていません。また、手伝っていません」の割合は31.3%（1年）、42.9%（2年）と61.6%（3年生）である。「1 はい」の割合は、2年生と3年生はほぼ同じであるが、全く関わっていない割合は、高学年になるにしたがって急上昇し、3年生は1年生のほぼ倍になっている。

図22から図24は女子生徒の集計で、「1 はい」の割合は33.8%（1年）、22.6%（2年）と24.1%（3年）である。「2 いいえ。しかし、手伝いました」は35.3%（1年）、42.9%（2年）、24.1%（3年）で、「3 全く作っていません」は30.9%（1年）、34.5%（2年）と51.7%（3年）である。一方で、男子（図25から図27）の「1 はい」は31.1%（1年）、15.2%（2年）と13.0%（3年生）で、「2 いいえ。しかし、手伝いました」は37.8%（1年）、33.7%（2年）、14.3%（3年）で、「3 全く作っていません」の割合は31.1%（1年）、51.1%（2年）と72.7%（3年）である。男女の差が容易にわかる。

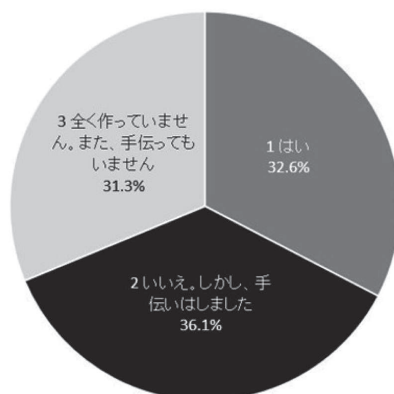


図19 〈問4〉に対する回答(1年・全体)

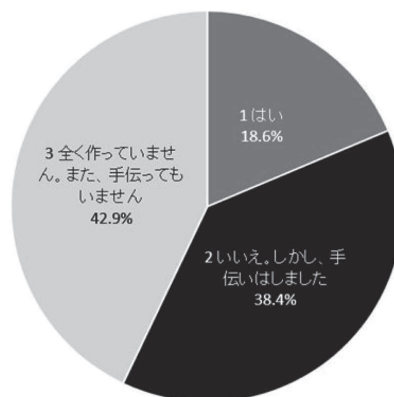


図20 〈問4〉に対する回答(2年・全体)

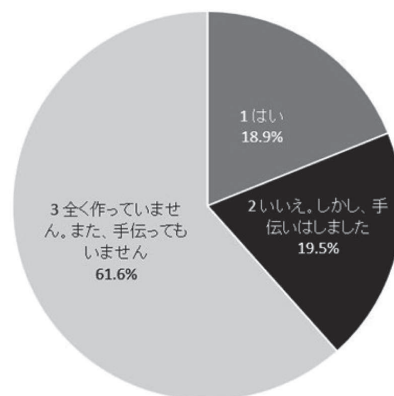


図21 〈問4〉に対する回答(3年・全体)



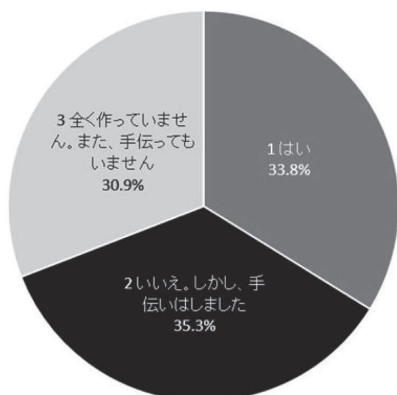


図22 〈問4〉に対する回答(1年・女子)

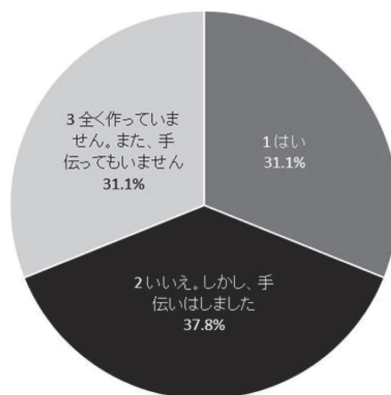


図25 〈問4〉に対する回答(1年・男子)

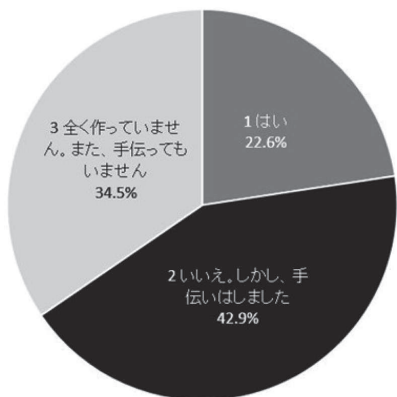


図23 〈問4〉に対する回答(2年・女子)

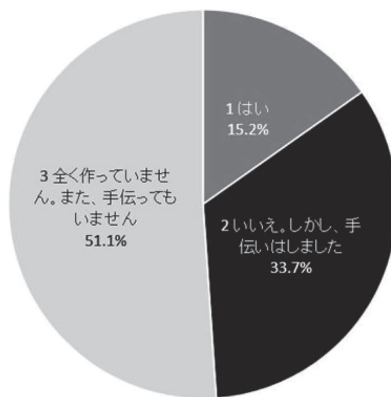


図26 〈問4〉に対する回答(2年・男子)

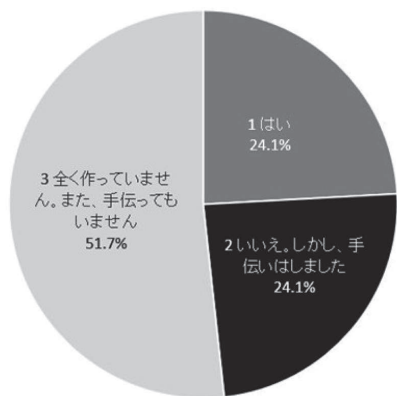


図24 〈問4〉に対する回答(3年・女子)

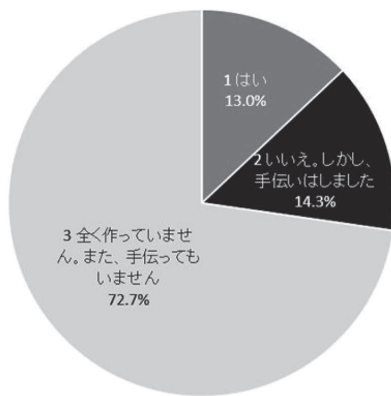


図27 〈問4〉に対する回答(3年・男子)

### 3.4 おかず作りの取り組み

おかず作りに関わった生徒の割合は問5の調査対象であった。図28から図30は3学年分の集計データである。「1 はい」と回答した生徒の割合は42.4% (1年)、35.6% (2年)、18.3% (3年) で「2 いいえ。しかし、手伝いました」は27.8% (1年)、23.2% (2年) と19.5% (3年) であり、「3 全く作っていません」の回答率は29.9% (1年)、41.2% (2年)、62.2% (3年) である。「1 はい」において1年と2年、および2年と3年生の減少率はそれぞれ6.8%と17.3%である。一方で、「3 全く作っていません」においては、これらの増加率は、それぞれ11.3%と21%である。

女子の集計は図31から図33に示す。「1 はい」と回答した生徒の割合は57.4% (1年)、44.0% (2年)、24.1% (3年) で、2年と3年生は半分以下になっている。「2 いいえ。しかし、手伝いました」は25.0% (1年)、23.8% (2年) と26.4% (3年) であり、顕著な違いがあるとはいえない。「3 全く作っていません」の回答率は17.6% (1年)、32.1% (2年)、49.4% (3年) で、3年生は1年生の約3倍、2年生の約1.5倍になっている。

図34から図36には3学年分の男子の集計データがある。「1 はい」と回答した生徒の割合は28.4% (1年)、28.3% (2年)、11.7% (3年) で、1年と2年はほぼ同じ割合を記録したが、3年生はこれらの半分以下になっている。「2 いいえ。しかし、手伝いました」は31.1% (1年)、21.7% (2年) と11.7% (3年) であり、学年が上がるにつれ3割ほど減少することがわかる。「3 全く作っていません」の回答率は40.5% (1年)、50.0% (2年)、76.6% (3年) であり、2年の時点で学年の半分には達しており、3年生になると学年の4分の3に到達する。

また、男女を対比すると、女子の「1 はい」は男子を大きく上回る。1年と3年では2倍を超えて、2年では1.5倍以上になっている。一方で、「3 全く作っていません」においては、1年の男子は、女子の2倍以上、2年と3年生の男子はそれぞれの女子の1.5倍以上になっている。

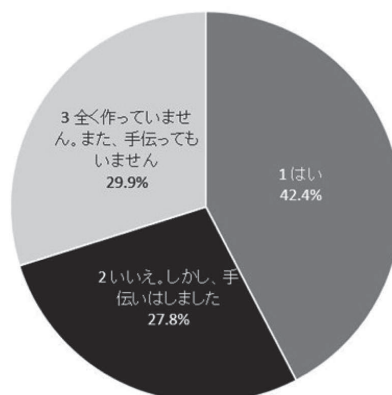


図28 〈問5〉に対する回答(1年・全体)

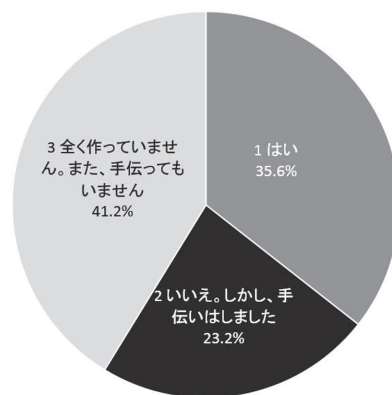


図29 〈問5〉に対する回答(2年・全体)

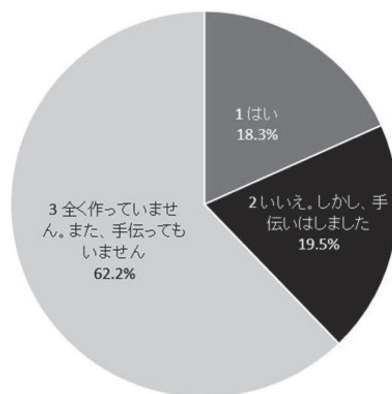


図30 〈問5〉に対する回答(3年・全体)

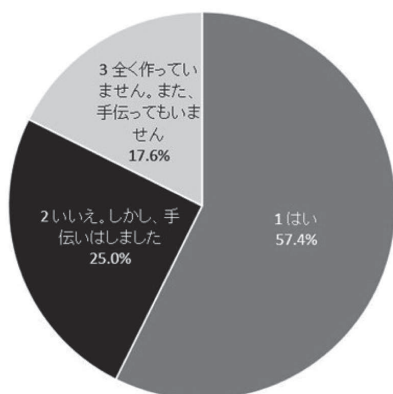


図31 〈問5〉に対する回答(1年・女子)

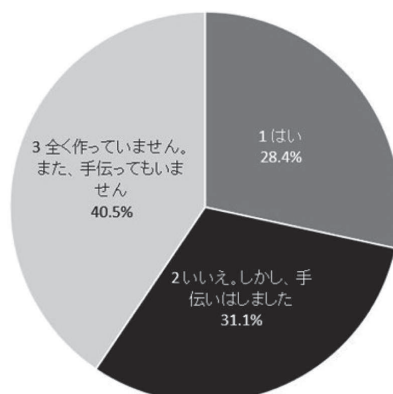


図34 〈問5〉に対する回答(1年・男子)

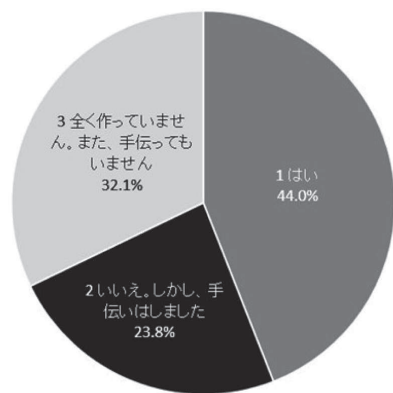


図32 〈問5〉に対する回答(2年・女子)

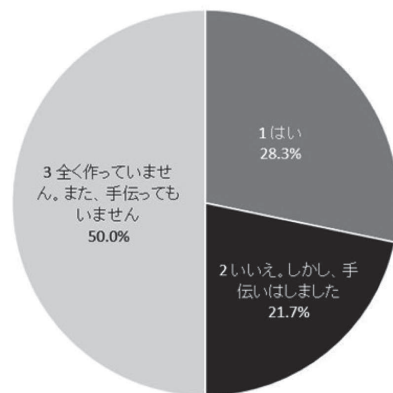


図35 〈問5〉に対する回答(2年・男子)

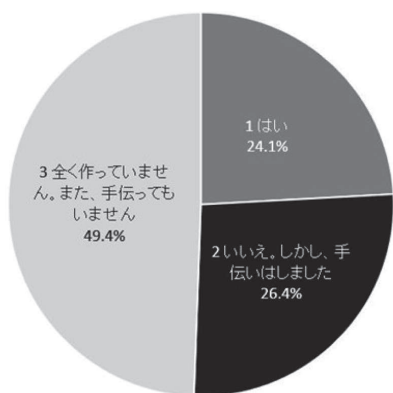


図33 〈問5〉に対する回答(3年・女子)

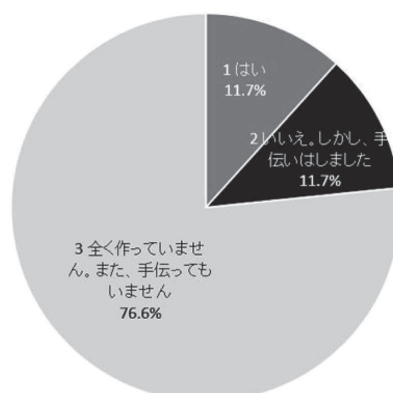


図36 〈問5〉に対する回答(3年・男子)

### 3.5 「自分で主食を作ったか」と「自分でおかずを作ったか」の回答の組み合わせ

ここでは、問4の「主食を自身で作りましたか」と問5の「おかずを自身で作りましたか」をクロス集計する。問4に対する回答を横軸、問5の回答は縦軸で積み上げ棒グラフとして表す。また、ここでは重要なポイントのみについて述べる。

最初に、図37から図39にある各学年のグラフを解釈する。「主食を自身で作りましたか」と「おかずを自身で作りましたか」の両方が「1 はい」の割合は25.0%（1年）、13.6%（2年）、12.2%（3年）である。「主食を自身で作りましたか」かつ「おかずを自身で作りましたか」が「2 いいえ。しかし、手伝いはしました」と回答した割合は18.8%（1年）、15.8%（2年）、11.0%（3年）である。また、「主食を自身で作りましたか」と「おかずを自身で作りましたか」が「3 全く作っていません」の選択率は23.6%（1年）、32.2%（2年）、54.9%（3年）である。

次に、図40から図42に示す各学年の女子のデータを考える。「主食を自身で作りましたか」と「おかずを自身で作りましたか」の両方が「1 はい」の割合は20.3%（1年）、16.7%（2年）、13.8%（3年）である。「主食を自身で作りましたか」かつ「おかずを自身で作りましたか」が「2 いいえ。しかし、手伝いはしました」と回答した割合は21.6%（1年）、15.5%（2年）、13.8%（3年）である。また、「主食を自身で作りましたか」と「おかずを自身で作りましたか」が「3 全く作っていません」の選択率は28.4%（1年）、26.2%（2年）、42.5%（3年）である。

最後に、男子の集計結果を見る（図43から図45）。「主食を自身で作りましたか」と「おかずを自身で作りましたか」の両方が「1 はい」の割合は29.4%（1年）、10.9%（2年）、10.4%（3年）である。「主食を自身で作りましたか」かつ「おかずを自身で作りましたか」が「2 いいえ。しかし、手伝いはしました」と回答した割合は16.2%（1年）、15.2%（2年）、7.8%（3年）である。また、「主食を自身で作りましたか」と「おかずを自身で作りましたか」が「3 全く作っていません」の選択率は17.6%（1年）、38.0%（2年）、68.8%（3年）である。

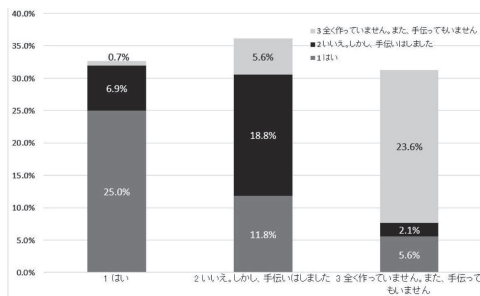


図37 〈問4〉の回答における「問5」の回答の内訳（1年・全体）

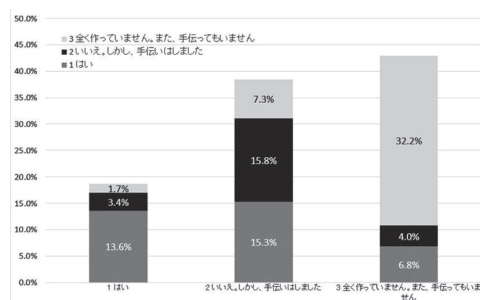


図38 〈問4〉の回答における「問5」の回答の内訳（2年・全体）

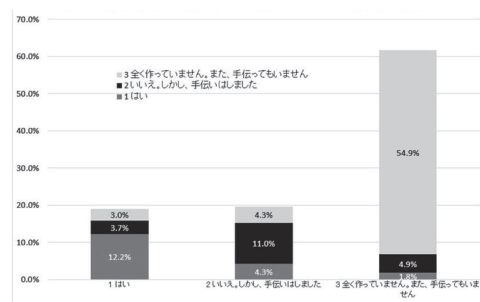


図39 〈問4〉の回答における「問5」の回答の内訳（3年・全体）

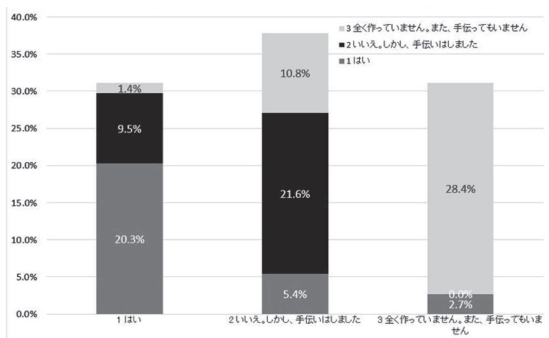


図40 〈問4〉の回答における「問5」の回答の内訳 (1年・女子)

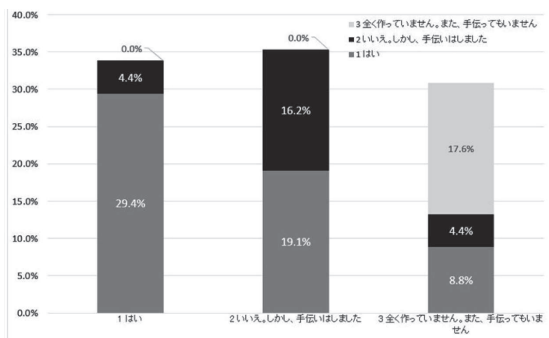


図43 〈問4〉の回答における「問5」の回答の内訳 (1年・男子)

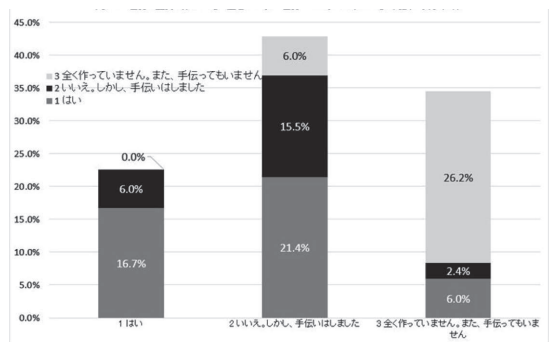


図41 〈問4〉の回答における「問5」の回答の内訳 (2年・女子)

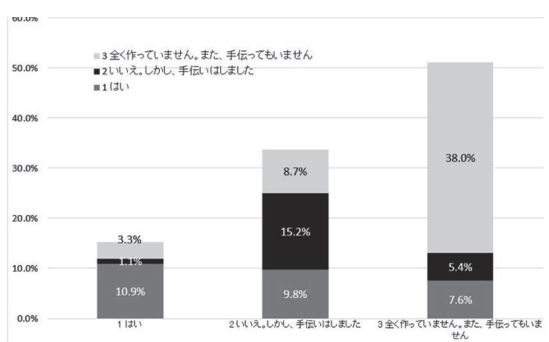


図44 〈問4〉の回答における「問5」の回答の内訳 (2年・男子)

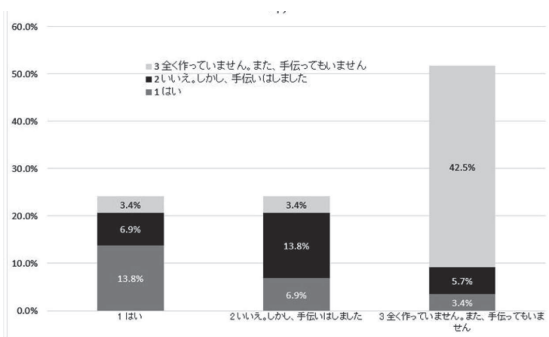


図42 〈問4〉の回答における「問5」の回答の内訳 (3年・女子)

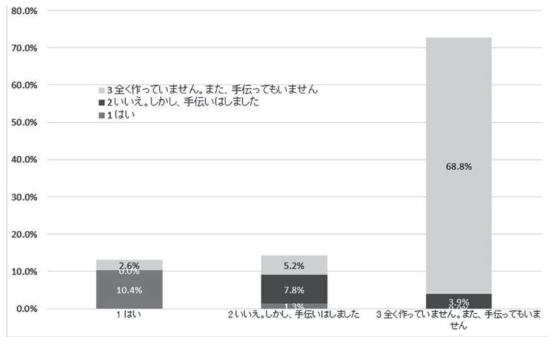


図45 〈問4〉の回答における「問5」の回答の内訳 (3年・男子)

### 3.6 主食やおかずの弁当箱詰め

本節では、問6の「弁当箱に主食やおかずを詰めたか」の回答を示す。

まずは、全体の集計を図46から図48で表す。「1 はい」の割合は48.6%（1年）、42.9%（2年）、32.9%（3年）で、全ての学年において半数を下回っている。「2 いいえ。しかし、手伝いました」の割合は19.4%（1年）、19.2%（2年）と11.6%（3年）で、1年生と3年生との差は7.6ポイントである。また、「3 全くしていません」の割合は31.9%（1年）、37.9%（2年）と55.5%（3年）である。1年生と2年生の3割台とは異なり、3年生は5割を超えている。

図49から図51は女子の集計データを表す。「1 はい」の割合は60.3%（1年）、54.8%（2年）、43.7%（3年）で、学年が上がるにつれその割合は減少する。また、1年と3年の差は16.6ポイントで、2年生はその間に入る。「2 いいえ。しかし、手伝いました」の割合は14.7%（1年）、16.7%（2年）と12.6%（3年）で、学年間の最大の差は2.1ポイントであり、大きな変動があるとは言い難い。「3 全くしていません」の割合は25.0%（1年）、28.6%（2年）と43.7%（3年）である。1年生と2年生の割合は2割半ばの比較的に近い数字だったのに対し、3年生は4割になり、15ポイントほど高い値になっている。

図52から図54は男子のデータである。「1 はい」の割合は37.8%（1年）、31.5%（2年）、20.8%（3年）で、1年生に対し、2年生は6.3%、3年生は17%低くなっている。「2 いいえ。しかし、手伝いました」の割合は24.3%（1年）、21.7%（2年）と10.4%（3年）で、1年生と3年生との差は13.9%である。また、「3 全くしていません」の割合は37.8%（1年）、46.7%（2年）と68.8%（3年）で、3年生は大きく半数を上回っている。

さて、1年生から3年生男女の「1 はい」の違いにおいては、女子は男子の約1.6倍、1.7倍と2.1倍である。そして、「3 全くしていません」では、男子の方が、全学年において約1.5高くなっている。

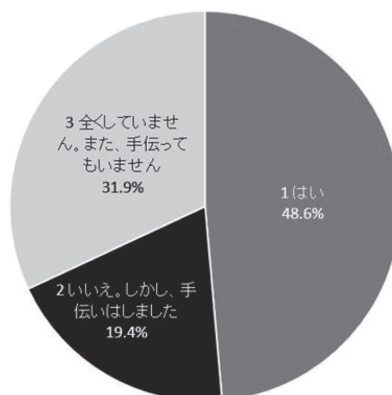


図46 〈問6〉に対する回答（1年・全体）

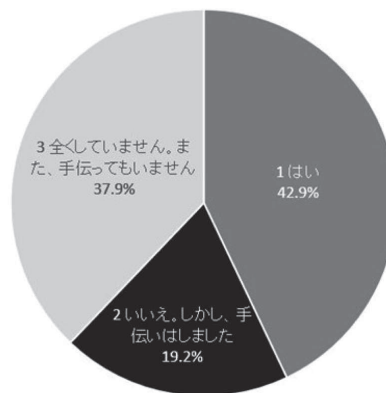


図47 〈問6〉に対する回答（2年・全体）

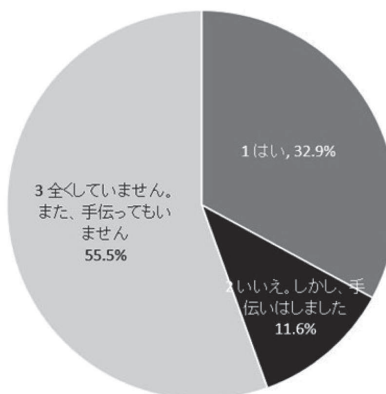


図48 〈問6〉に対する回答（3年・全体）

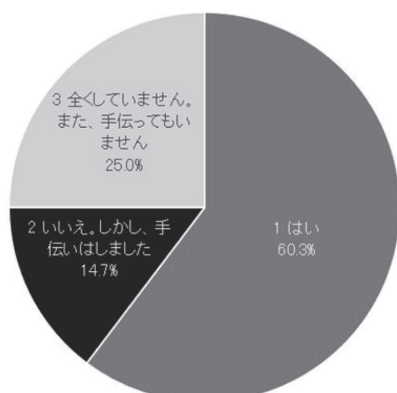


図49 〈問6〉に対する回答（1年・女子）

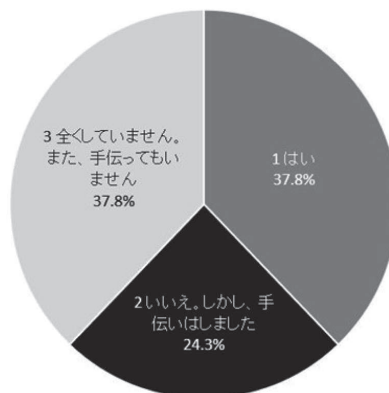


図52 〈問6〉に対する回答（1年・男子）

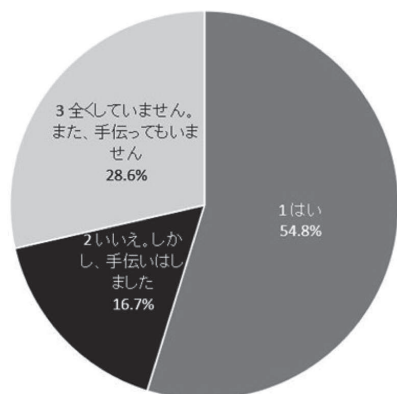


図50 〈問6〉に対する回答（2年・女子）

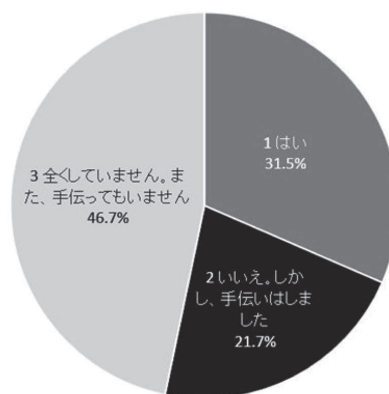


図53 〈問6〉に対する回答（2年・男子）

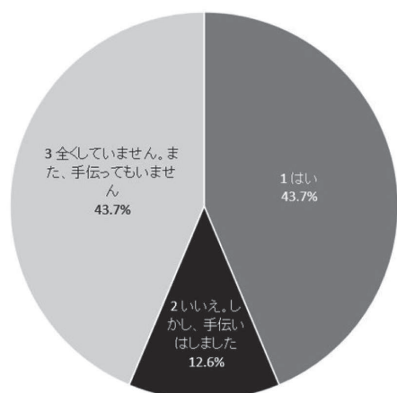


図51 〈問6〉に対する回答（3年・女子）

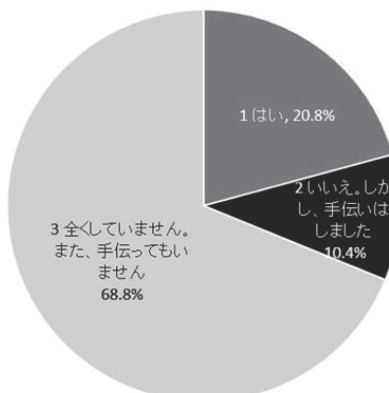


図54 〈問6〉に対する回答（3年・男子）

### 3.7 自分で主食を作ったか」と「自分でおかずを作ったか」の回答の組み合わせに対する「自分で弁当箱につめたか」の回答の内訳

本節では、先述の設問のクロス集計の結果に焦点をおく。グラフの横軸は、「自分で主食を作った」と「自分でおかずを作った」の組み合わせで、縦軸は横軸のように回答した生徒が「自分で弁当箱につめた」に対し選んだ選択肢を表す。図55から図57に示すように、「自分で主食を作った」、「自分でおかずを作った」と「自分で弁当箱に主食等を詰めた」の全てに対し「1はい」と回答した生徒の割合は20.8%（1年）、11.9%（2年）と9.8%（3年）であり、学年が高くなればなるほどその割合は低くなる。他方、全ての質問に対して「3全くしていません。また、手伝っていません」と回答した人数は、20.8%（1年）、27.7%（2年）と47.6%（3年）であり、3年生は高い割合になっている。

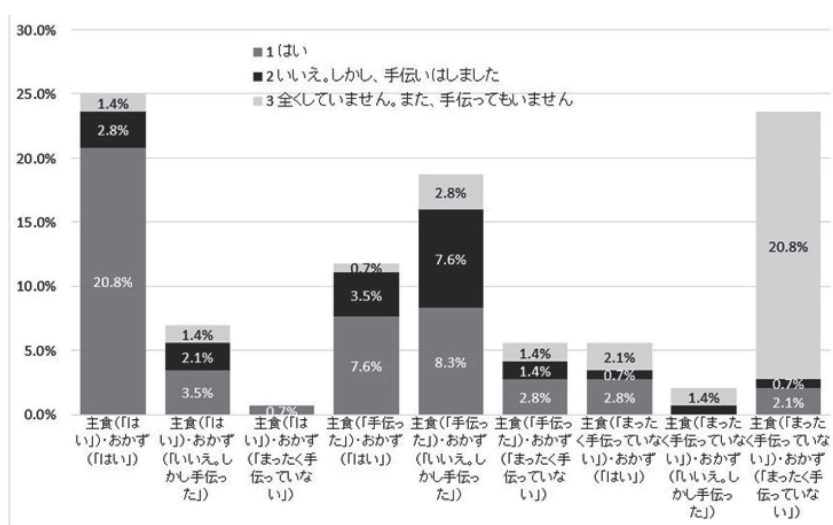


図55 1年生の回答

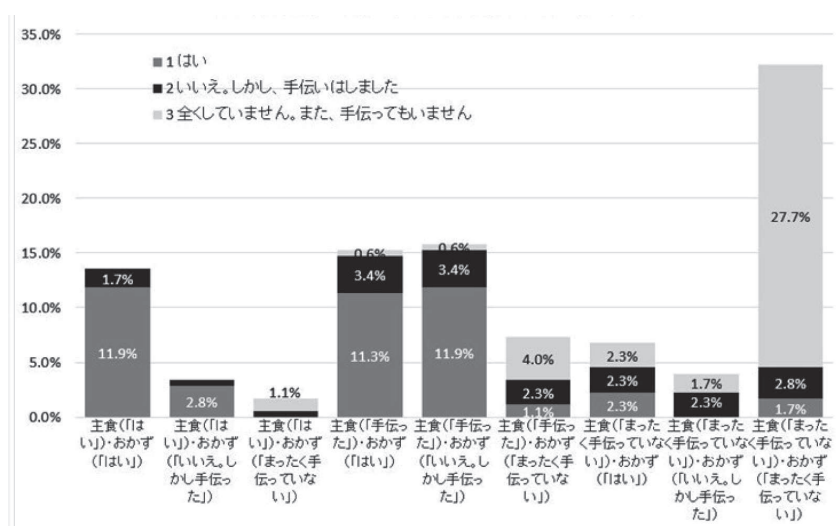


図56 2年生の回答



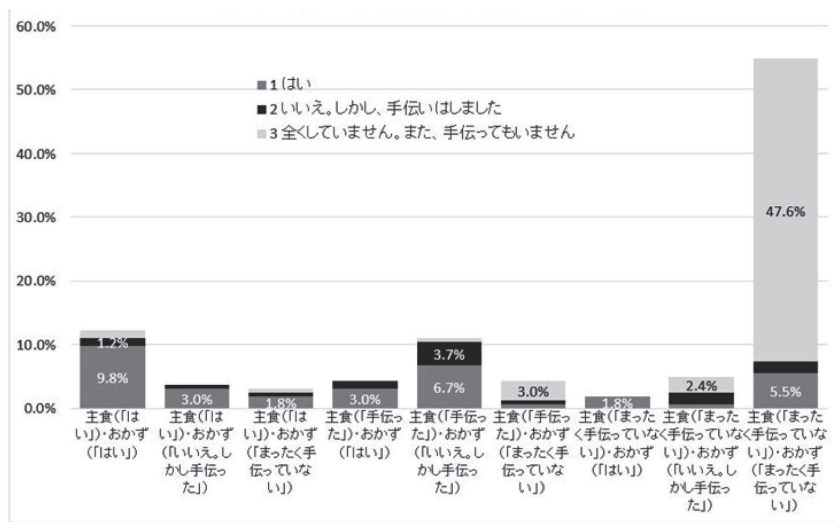


図57 3年生の回答

女子の集計結果は図58から図60になる。「自分で主食を作った」、「自分でおかずを作った」と「自分で弁当箱に主食等を詰めた」の全てに対し「1はい」と回答した生徒の割合は27.9% (1年)、13.1% (2年)と11.5% (3年)であり、各学年間の顕著な違いが確認できる。他方、全ての質問に対して「3全くしていません。また、手伝ってもしません」と回答した人数は16.2% (1年)、22.6% (2年)と34.5% (3年)である。

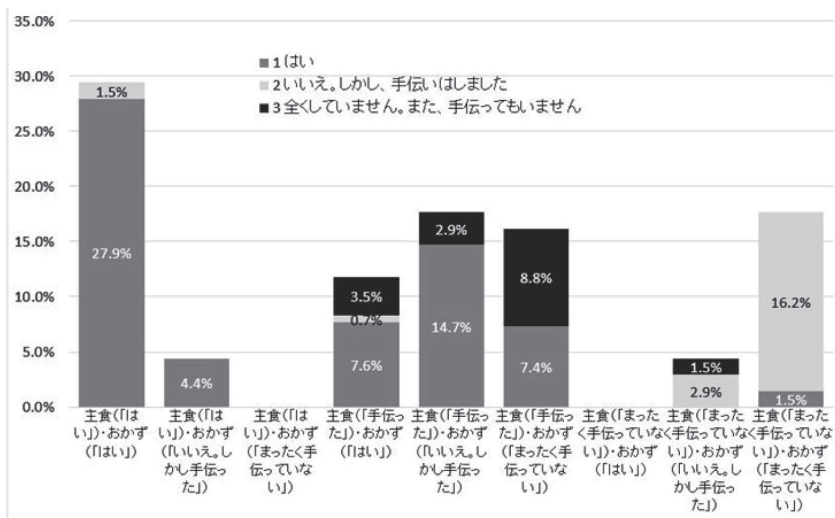


図58 1年生・女子の回答

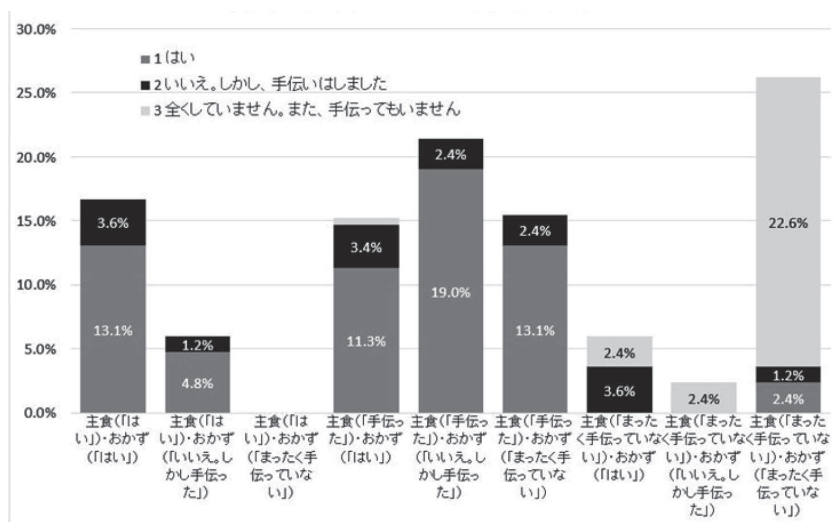


図59 2年生・女子の回答

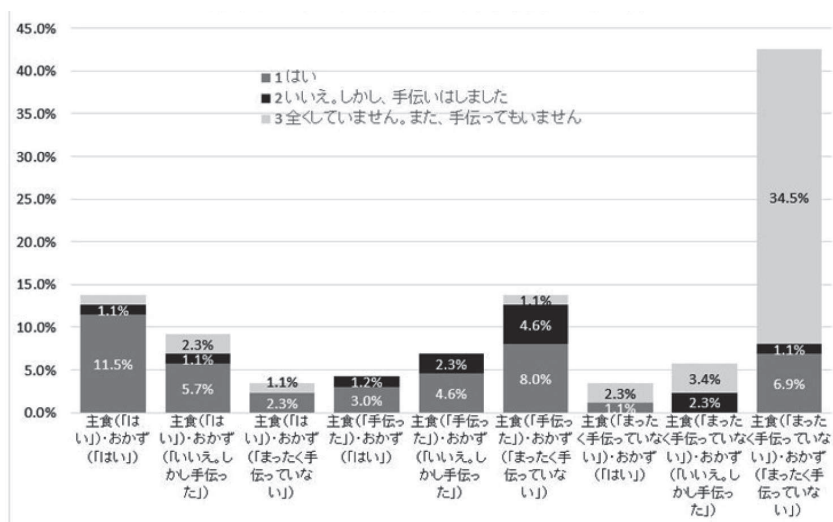


図60 3年生・女子の回答

なお、図61から図63に示されている男子の集計結果より、次のことがわかる。「自分で主食を作った」、「自分でおかずを作った」と「自分で弁当箱に主食等を詰めた」の全てに対し「1 はい」と回答した生徒の割合は20.8% (1年)、10.9% (2年)と7.8% (3年)である。他方、全ての質問に対して「3 全くしていません。また、手伝ってもいません」と回答した人数は、20.8% (1年)、32.6% (2年)と62.3% (3年)である。

男女の違いに着目を見ると、3年生の「3 全くしていません。また、手伝ってもいません」の違いが著しく、男子は女子の約2倍で半数以上になっている。

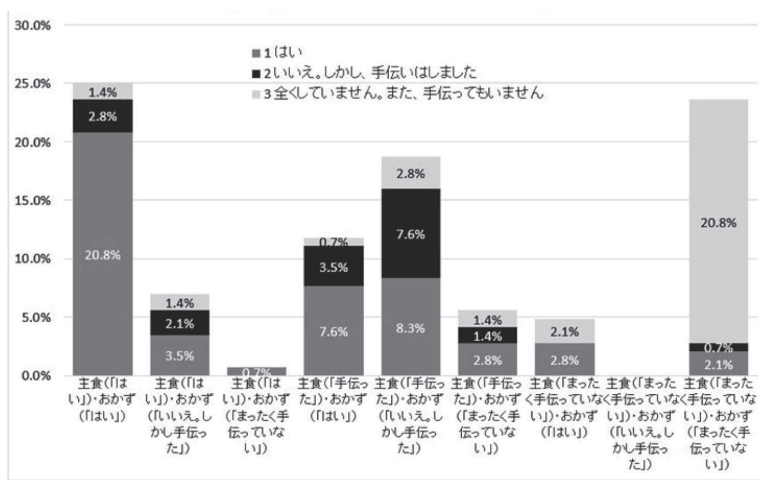


図61 1年生・男子の回答

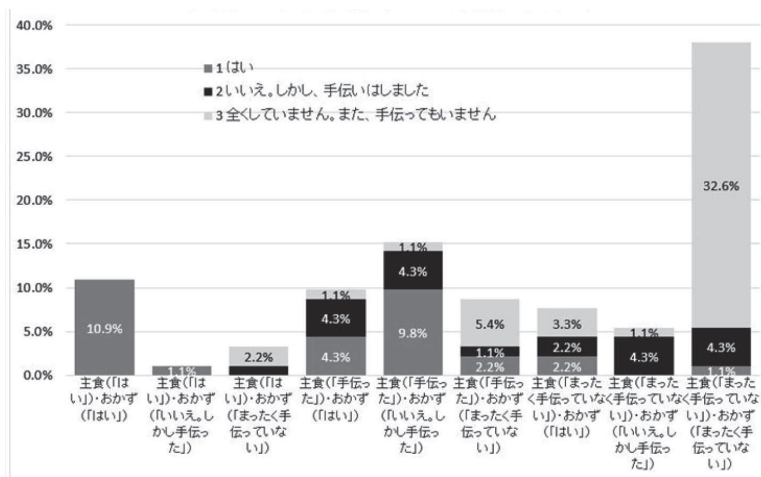


図62 2年生・男子の回答

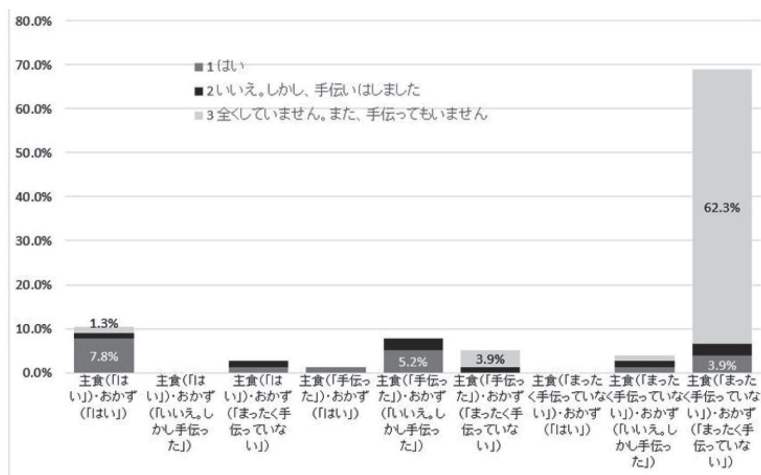


図62 3年生・男子の回答

### 3.8 弁当作りの後片付け

本節では、問7「調理器具を洗ったか」に対する回答を集計する。

図64から図66に表されている各学年の回答を考える。「1 はい」の回答率は22.2%（1年）、13.0%（2年）と、15.9%（3年）であり、前述の傾向とはことなり、3年生の方が2年生より高い数字をだしている。次に、「2 いいえ。しかし、手伝いました」は29.9%（1年）、24.9%（2年）と14.6%（3年）であり、後者の数字は、ほかより小さい割合になっている。また、「3 全くしていません。また、手伝ってもいません」は、47.9%（1年）、62.1%（2年）と69.5%（3年）で、2年生と3年生は、大きく半数を占めている。

女子の集計は図67から図69に示す。「1 はい」の回答率は26.5%（1年）、17.9%（2年）と17.2%（3年）であり、3年生と2年生の値はほぼ同じで、1年生に対し9.3ポイントほど低いものになっている。さて、「2 いいえ。しかし、手伝いました」は38.2%（1年）、31.0%（2年）と16.1%（3年）である。3年と1年の差は22.1ポイントで、3年と2年のそれは14.9%である。また、「3 全くしていません。また、手伝ってもいません」は35.3%（1年）、51.2%（2年）と66.7%（3年）である。

男子のデータは図70から図72に表されている。「1 はい」の割合は18.9%（1年）、8.7%（2年）と、14.3%（3年）であり、他に比べて2年の割合は著しく低いことがわかる。次に、「2 いいえ。しかし、手伝いました」は23.0%（1年）、19.6%（2年）と13.0%（3年）である。また、「3 全くしていません。また、手伝ってもいません」は58.1%（1年）、71.7%（2年）と72.7%（3年）で、全ての学年が、半数を超えている。

次に、1年生から3年生の男女を比較する。「1 はい」において、女子は男子の約1.4倍（1年）、2.1倍（2年）と1.2倍（3年）である。「3 全くしていません」においては、男子の方が女子の約1.6倍（1年）、1.4倍（2年）と1.1倍（3年）になっている。

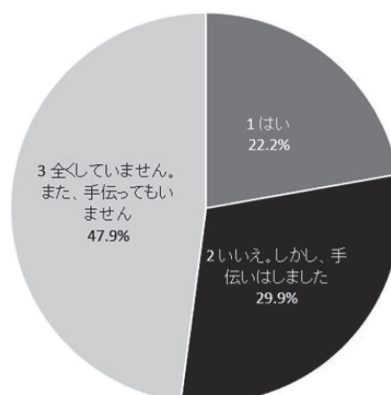


図64 〈問7〉に対する回答  
（1年・全体）

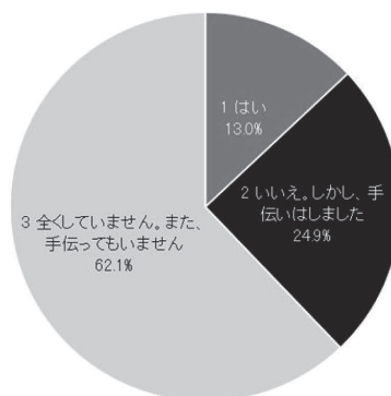


図65 〈問7〉に対する回答  
（2年・全体）

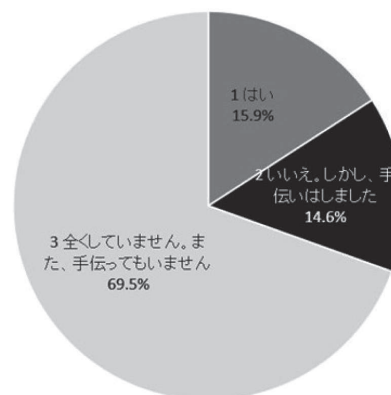


図66 〈問7〉に対する回答  
（3年・全体）

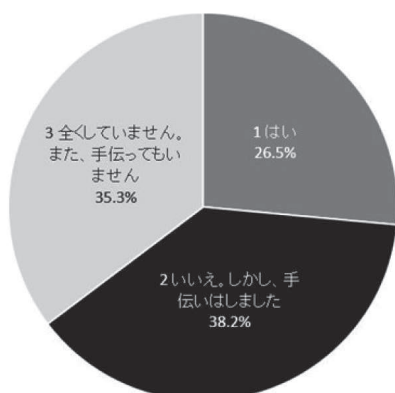


図67 〈問7〉に対する回答（1年・女子）

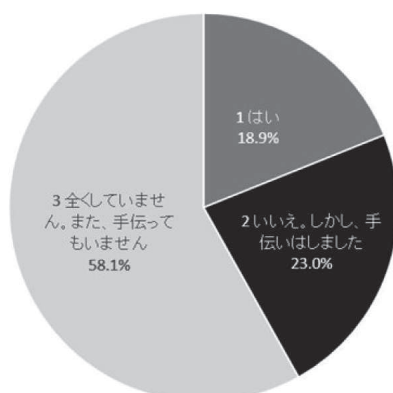


図70 〈問7〉に対する回答（1年・男子）

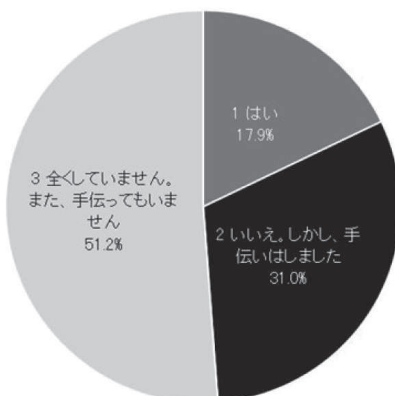


図68 〈問7〉に対する回答（2年・女子）

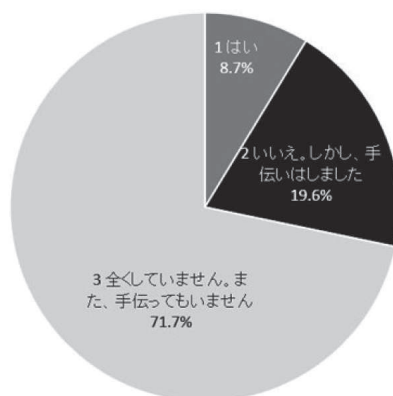


図71 〈問7〉に対する回答（2年・男子）

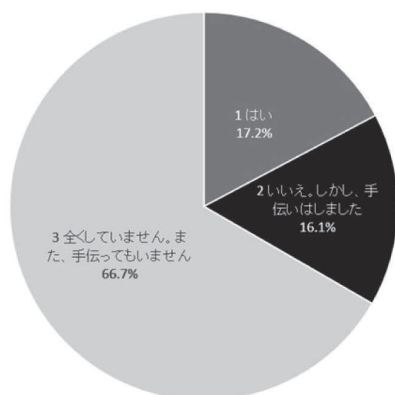


図69 〈問7〉に対する回答（3年・女子）

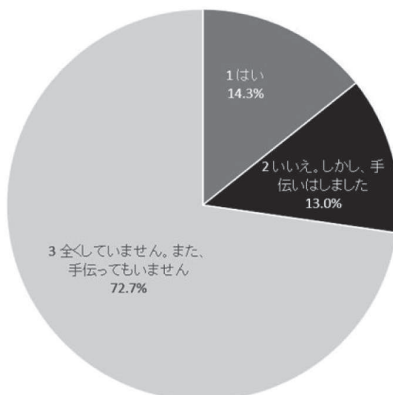


図72 〈問7〉に対する回答（3年・男子）

### 3.9 全ての作業に関わった生徒と作業に全く関わっていない生徒の比較

ここでは、「主食作り」、「おかず作り」、「主食やおかずの弁当箱詰め」、そして、「調理器具を洗う」の全ての作業に関わった、およびいずれにも関わっていない生徒の割合を調べる。

図73から図75に示すように、全ての作業に関わった1年生の割合は8.3%で、そのうち、女子は8.8%、男子は8.1%になっている。2年生においては、全体で3.4%、女子は4.8%と男子は2.2%である。また、3年全体は7.9%で、その内訳は女子が8.0%で、男子は7.8%である。興味深いことに、2年生は3年生より低い数字になった。

一方で、いずれの作業にも関わっていない生徒の統計は図76から図78に示す。そこで、1年生の割合は全体で20.1%である。その内訳は、女子は17.6%、男子は21.6%になっている。2年に関しては全体で27.1%、女子は21.4%と男子は32.6%である。また、3年全体の42.1%であるが、女子は28.7%で、男子は57.1%である。

「全てに関わっている」と「いずれにも関わっていない」における男女のパターンは対称的であることが特徴的である。

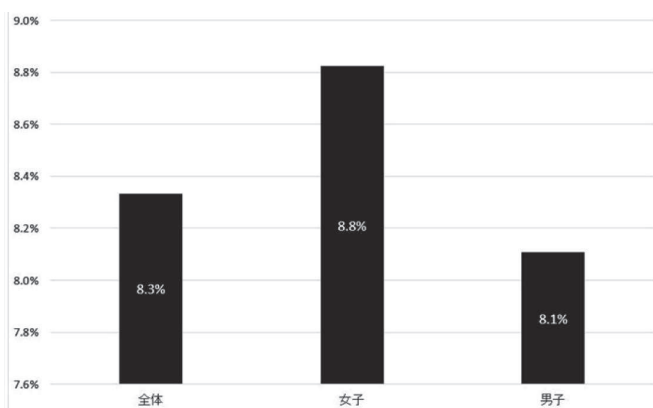


図73 「主食作り」、「おかず作り」、「弁当詰め」、「調理器具を洗う」の全ての作業に関わった生徒の割合（1年生）

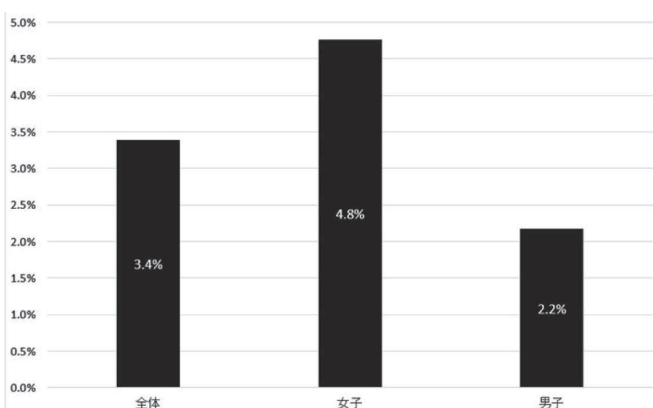


図74 「主食作り」、「おかず作り」、「弁当詰め」、「調理器具を洗う」の全ての作業に関わった生徒の割合（2年生）

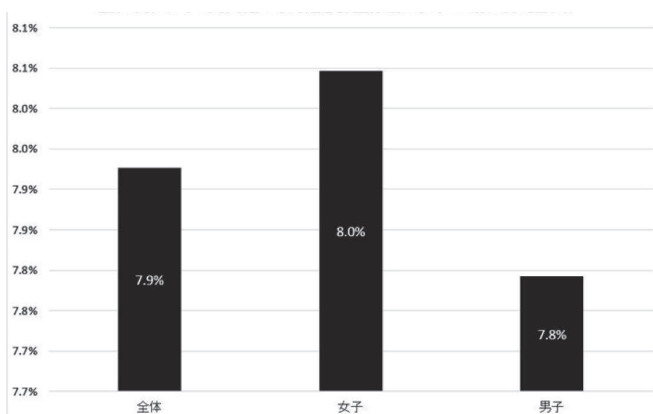


図75 「主食作り」、「おかず作り」、「弁当詰め」、「調理器具を洗う」の全ての作業に関わった生徒の割合（3年生）

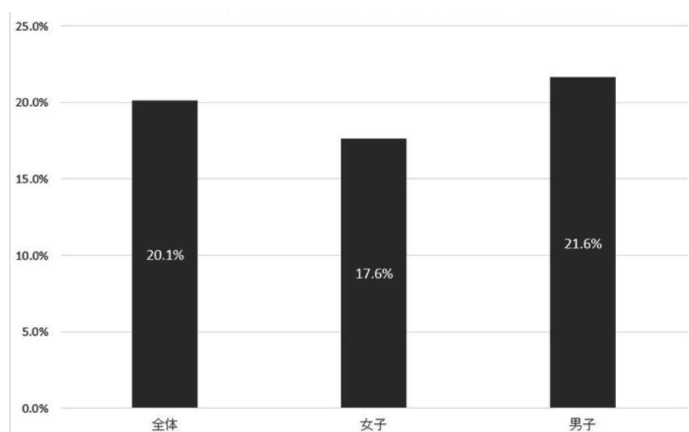


図76 「主食作り」、「おかず作り」、「弁当詰め」、「調理器具を洗う」のいずれの作業にも関わっていない生徒の割合（学年に対する数値）（1年生）

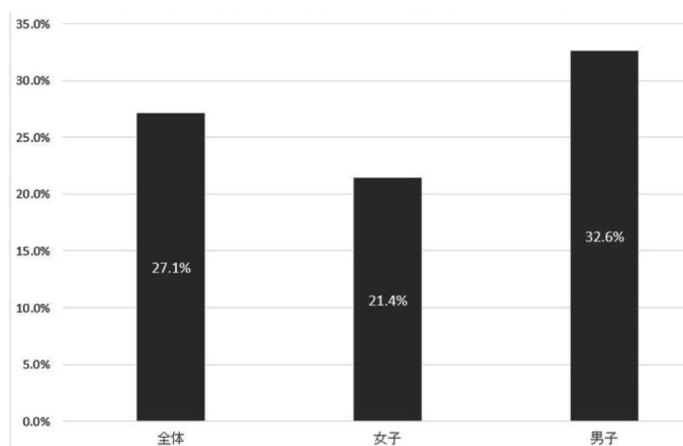


図77 「主食作り」、「おかず作り」、「弁当詰め」、「調理器具を洗う」のいずれの作業にも関わっていない生徒の割合（学年に対する数値）（2年生）

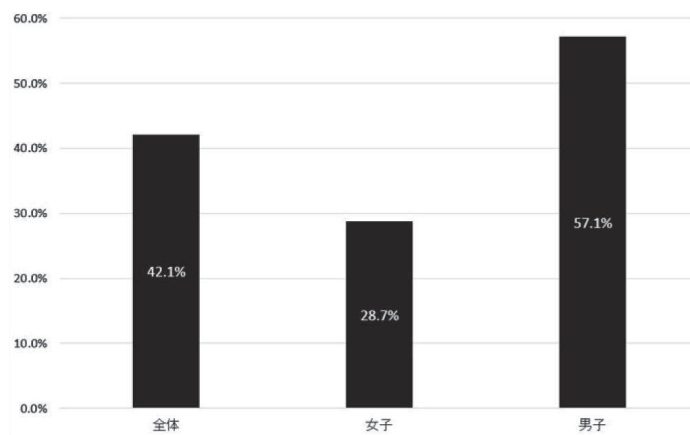


図78 「主食作り」、「おかず作り」、「弁当詰め」、「調理器具を洗う」のいずれの作業にも関わっていない生徒の割合（学年に対する数値）（3年生）

### 3. 10 自家製弁当以外を持参した生徒の実態

図79から図84に示すように、自家製の弁当以外の弁当を持参した生徒は、2年生と3年生のみで、1年には該当者がいない。

図79から分かるように、2年生には3件あり、そのうちの2件は「コンビニ」で残りの1件は「冷凍食品」になっているのに対し、3年生では「スーパーで購入」（1件）のほか、異なった複数の回答があった。

男女別にみると、男子では「コンビニ弁当」が2名（2年生と3年生それぞれ1人）、「今日は作っていない」が3年生1名、「分からない」が3年生1名という回答であった。女子では、「コンビニ弁当」が2名（各学年一人）、「スーパーで購入」が3年生1名、「冷凍食品」が2年生1名であった。

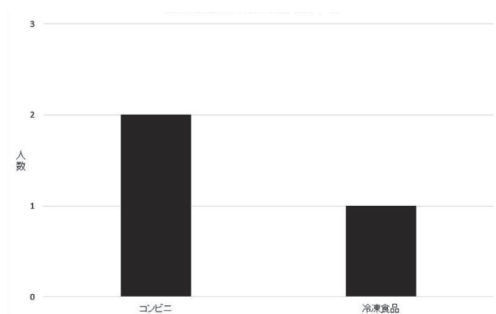


図79 自家製弁当以外のものの実態（2年生）

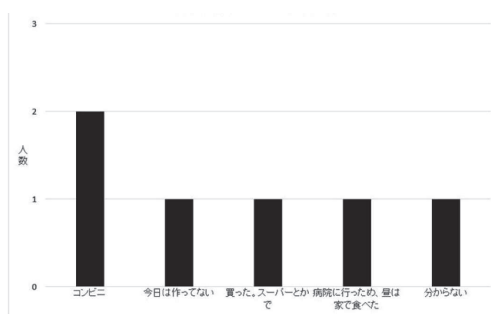


図80 自家製弁当以外のものの実態（3年生）

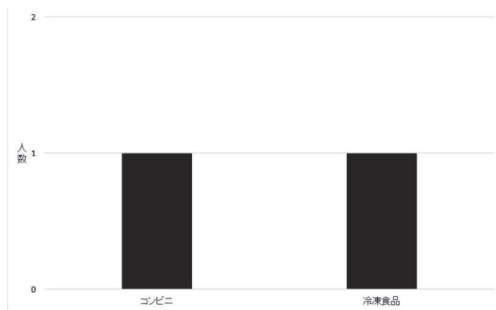


図81 自家製弁当以外のものの実態（2年・女子）

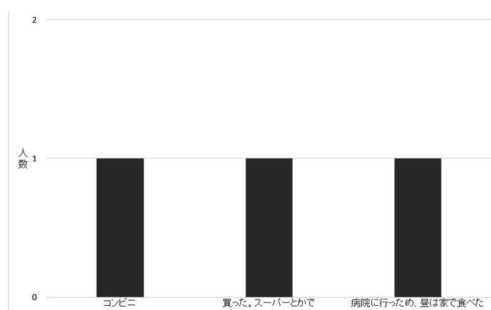


図82 自家製弁当以外のものの実態（3年・女子）

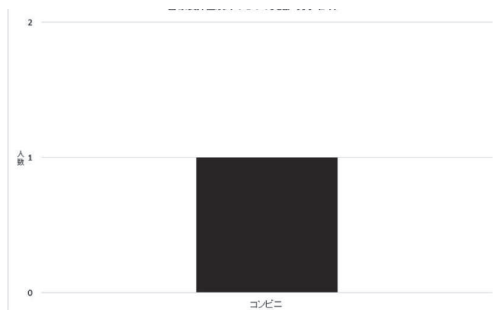


図83 自家製弁当以外のものの実態（2年・男子）

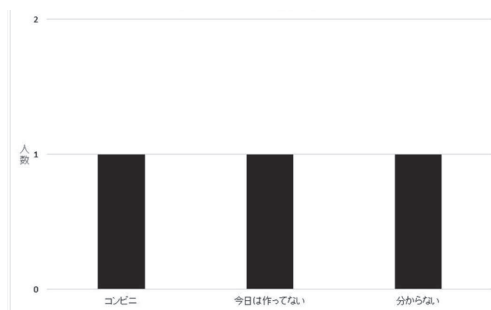


図84 自家製弁当以外のものの実態（3年・男子）



#### 4 考察

本研究では、「子どもがつくる“弁当の日”」と呼ばれる活動を実践した中学生の弁当作りの取り組み実態の学年ならびに男女の相違について明らかにすることであった。また、本論文の目的は、その研究成果を報告することである。

弁当作りに関わった人については、学年が上がるにつれ生徒自身が関わった割合が減少している。そして、また、弁当作りに関わる人も多様化している。1年生と2年生は生徒の約7割が弁当作りに関わっているが、3年生は全体の半数以下の生徒しか関わっておらず、そして、母親の割合が一番高くなっている(図1から図3)。男女を比較した場合では、3年女子は他の学年と同様に約6割の生徒が弁当作りに関わっているが、3年男子は約3割しか関わっていない(図4から図9)。この点については、男子は弁当を作ることは面倒であり誰かに作ってもらった方が楽であると考えている以外にも、ある種の気恥ずかしさが影響しているのではないかと考えられる。昼食時の友達同士での会話の中で、誰が弁当を作ったのかという会話が発生した時に、自分が作った、あるいは手伝ったという事実を恥ずかしさから堂々と発言できない可能性がある。

弁当作りに関わった人を具体的にみると、三学年とも母親の関与が高いことが分かる(図10から図12)。家庭内における食事作りは、主に女性(特に母親)が担当する傾向が強いため、この結果は当然のことであろう。一方、生徒が一人で弁当を作ったことに着目すると、1年生と3年生は1割を超えているが、逆に2年生は1割を切っている(図10から図12)。特に、1年生については、自分一人で弁当を作ろうと頑張っている様子を知ることができた。また、男女を比較した場合では、1年女子の約2割が自分一人で弁当を作っており、次いで、3年女子、1年男子、3年男子の順に自分一人で弁当を作っていることが分かる(図13から図18)。男女とも1年生については自分一人で弁当を作ろうと取り組んでおり、活動への参加意識が高いことが示されている。2年男子については、7.7%のみが自分一人で弁当を作っており、男子生徒の気持ちの中で、弁当を作ることは面倒であり誰かに作ってもらった方が楽であると考えているのではないかと推察される。

主食作りの取り組み状況については、一人で主食を作った割合は2年生と3年生はほぼ同じである。しかし、全く関わっていない割合は高学年になるにしたがって増えていき、3年生は1年生のほぼ倍になっている(図19から図21)。男女を比較した場合では、2年男子と3年男女の約半数が主食作りに全く関わっていない。特に3年男子の約7割が全く関わっておらず、主食作りには積極的ではない(図22から図27)。さて、弁当における主食としては、ごはんが真っ先に思い浮かぶ。ごはんを炊くにあたっては炊く前の準備として、お米をはかる、お米を洗う、水加減する、炊飯器に内鍋をセットする、炊飯器の炊飯ボタンを押すといった作業がある。ごはんを炊くと聞いて真っ先にイメージされるのは、お米を洗う作業になるだろう。このお米を洗う作業は生徒にとっては大変面倒な作業と感じていることが推察できる。近年では無洗米も一般的に流通しているため、無洗米を取り入れることで、ごはんを炊く行為は特段面倒な作業ではないことを生徒に指導することも必要となるだろう。

おかず作りの取り組み状況については、一人でおかずを作った割合は1年生と2年生は同程度である。だが、全く関わっていない割合は学年が上がるにつれ増えていき、3年生は1年生のほぼ倍になっている(図28から図30)。また、男女を比較した場合では、2年男子と3年女子および3年男子の約半数がおかず作りに全く関わっていない。特に、3年男子の約7割強が全く関わっておらず、おかず作りにも積極的ではない。これらは主食作りと同様の傾向を示している(図31から図36)。興味深い点は、男子に比べて女子の方が何らかの形でおかず作りに携わっていたことである。特に、1年女子の約6割と2年女子の約4割強が一人でおかずを

作っている。おかずの調理、特に炒めるや味付けをする作業は楽しい作業であるため、女子生徒はこれらの作業に参加したのではないかと推察される。また、家庭においても普段から女子生徒に対し、おかず作りに積極的に参加させていた可能性がある。そのため、女子は今回の「子どもがつくる“弁当の日”」活動を特別な行事としてとらえることなく、おかず作りに参加できたのであろう。

主食作りの回答に対するおかず作り回答の内訳を見ると、学年の中では、1年生が主食を一人で作りかつおかずも一人で作った割合が25.0%と、全学年の中で一番高い値を示している(図37)。男女を比較した場合でも、主食を一人で作りかつおかずも一人で作った割合が1年女子は20.3%、1年男子は29.4%となっている(図40、図43)。特に、全学年を通して、1年男子が主食を一人で作りかつおかずも一人で作った割合が一番高い値を示していることが大変興味深い(図40から図45)。これまでの議論からも学年が上がるにつれ、主食作りにもおかず作りにも生徒自身が関わった割合が減少し、特に男子がその傾向が強いことが示されている。しかし、その実、主食作りにもおかず作りにも、つまり、食に関して興味関心があるのは男子なのではないだろうか。それが、低学年から高学年へと学年が上がるにつれ、「料理は面倒で大変である」や「男子が料理するのは恥ずかしい」といった感情が生まれ、その影響により高学年になるほど弁当作りに関わる割合が減少していったのではないかと推察する。

弁当作りにおける作業のうち、弁当箱に主食やおかずを詰める作業を生徒自身が行ったことに関しては、作業を行った割合は1年生と2年生はほぼ同じで6割程度存在している(図46、図47)。しかし、全く関わっていない割合は高学年になるにしたがって上昇し、3年生は1年生の約1.7倍になっている(図48)。男女を比較した場合では、2年男子と3年女子の半数に近い生徒が主食やおかずを詰める作業に全く関わっていない。特に3年男子の約7割強が全く関わっておらず、主食やおかずを詰める作業にも積極的ではない(図49から図54)。これらは主食作りおよびおかず作りと同様の傾向を示している。1年女子と2年女子については約8割近い生徒が弁当箱詰め作業に携わっている(図49、図50)。弁当箱詰め作業は、弁当作りの中でも最後の工程に属しているが、最終的に弁当の印象や価値を決定づける非常に大切な作業である。特に女子が積極的にこの作業に取り組んでいる点については、女子はまずは見た目を重視している傾向が強く影響していることがこの結果からも見て取れる。

主食作り及びおかず作りの回答に対する弁当箱詰め作業の回答の内訳をみると、1年生の「主食を自分自身の手で作る」かつ「おかずも自分自身の手で作った」と回答した人のうち、20.8%が弁当箱詰め作業も自分の手で行っている(図55)。自分の手で作った主食とおかずを自分の手で弁当箱に詰めたいという意欲のある生徒が1年生では2割も存在しており、この生徒は最後までこの活動に意欲的に取り組んでいた様子が分かる。その一方で、全ての質問に対して「全くしていません。また、手伝ってもいません」と回答した1年生は20.8%であり、奇しくも全て自分で弁当作りの作業を行った割合と同じになっていた(図55)。また、学年が上がるにつれ、全ての質問に対して「全くしていません。また、手伝ってもいません」と回答した生徒の割合が増加している(図55から図58)。この点からも高学年になればなるほど、この活動にあまり積極的に取り組んでいないことが分かる。男女を比較した場合では、特に1年女子は「主食を自分自身の手で作る」かつ「おかずも自分自身の手で作った」と回答した人のうち27.9%が弁当箱詰め作業も自分の手で行っている(図58)。このことから、1年女子は与えられた活動は最後まで責任を持ってやり遂げる生徒が多いことを示唆している。

弁当作りの後片付けの一つである調理器具を洗うことに関しては、作業を行った割合は1

年生が約半数存在している(図64)。しかし、全く関わっていない割合は学年が上がるにつれて増えていき、2年生と3年生はほぼ同じで6割強程度存在している(図65、図66)。男女を比較した場合には、特に1年女子の6割強は調理器具を自分で洗う、または調理器具を洗う手伝いを行っている(図67)。この点からとらえても、1年女子は与えられた活動は最後まで責任を持ってやり遂げる生徒が多いことを示唆している。

弁当作りの全ての作業、つまり、「主食作り」・「おかず作り」・「主食やおかずの弁当箱詰め」、そして、「調理器具を洗う」のすべての作業に関わっていた生徒は、1年生全体での割合は8.3%、2年生全体では3.4%、3年生全体では7.9%であった(図73から図75)。これまでの議論からも全学年の中でも1年生の割合が高くなることは予想できたが、興味深いことに2年生は3年生より低い数字になっていた。この結果から、人数的にはごく僅かではあるが、食事作りには食後の後片付けも含まれていることを理解している生徒が存在していることが示唆されている。また、「全てに関わっている」と「いずれにも関わっていない」における男女のパターンは対称的であることが特徴的である(図73から図78)。「全てに関わっている」生徒は、どの学年とも男子に比べて女子が高くなっている。一方、「いずれにも関わっていない」生徒は、どの学年とも女子に比べて男子が高くなっている。男女において、この「子どもがつくる“弁当の日”」活動の意味や目的のとらえ方、また弁当作りを含む食事作りに対する意識の違いが明確に表されたのではないかと考える。

## 5 結論

本研究では、「子どもがつくる“弁当の日”」と呼ばれる活動を実践した中学生の弁当作りの取り組み実態の学年ならびに男女の相違について明らかにすることを目的とし、新潟県三条市に所在する中学校1校を対象として調査を実施し、学年ならびに男女の相違分析を試みた。その結果、学年が上がるにつれ、弁当作りに生徒自身が関わった割合が減少し、弁当作りに関わる人も多様化していることが分かった。また、男女を比較した場合には、男子生徒に比べ女子生徒の方が弁当作りに取り組んでおり、特に1年女子生徒がこの活動に積極的に取り組んでいる実態が分かった。

## 謝辞

本研究を遂行するにあたり、調査にご協力くださいました生徒の方々および教職員の皆様に心より御礼申し上げます。

## 参考文献

- [1] 竹下和男. “弁当の日”がやってきた. 新装改訂版第3刷, 自然食通信社, 2013, 184p.
- [2] 竹下和男. 「子どもだけで作る“弁当の日”」—親は手伝わないで! で深まる家族の時間— . 日本調理科学会誌. 2008, Vol.41, No.2, p154-157.
- [3] 子どもが作る「弁当の日」応援団. “子どもが作る弁当の日 実践校”. <http://bentounohi.kids.coocan.jp/zissen.html>, (accessed 2015-11-06).
- [4] 竹下和男. “「ごちそうさま」もらったのは“命”のバトン～子どもがつくる“弁当の日”10年の軌跡～”. 自然食通信社, 2012, 158p.
- [5] 三条市教育委員会事務局 小中一貫教育推進課. “子どもがつくる弁当の日”. <http://www.city.sanjo.niigata.jp/gakkyou/page00037.html>, (accessed 2015-11-06).
- [6] 西川友子, 伊豆田義人. 「子どもがつくる“弁当の日”」実践活動に関する生徒の取り組みの実態～ある中学生の事例～. 山形県立米沢女子短期大学紀要. 2015, 第51号, p.93-109.

## 付録（調査票）

**A あなたのことについて**

問1 項目ごとにあてはまるものを1つ選んで番号に○印をつけてください。

(1) 学年	1 1年生	2 2年生	3 3年生
(2) クラス	1 A組	2 B組	3 C組
	4 D組	5 E組	6 F組
(3) 出席番号	番 (番号を記入してください。)		
(4) 性別	1 男子	2 女子	

問2 あなたは食物アレルギーなど食べ物に対する制限はありますか。あてはまるものを1つ選んで番号に○印をつけてください。

1 はい	2 いいえ
------	-------

**B お弁当をつくった方について**

問3 お弁当は誰が作りましたか。あてはまるものをすべて選んで番号に○印をつけてください。(※もし、あなた自身以外にも作った方がいた場合は、あてはまる番号に○印をつけてください。)

1 あなた自身	2 母親	3 父親
4 祖父母	5 兄弟姉妹	6 おじ・おばなど親戚
7 その他 ( )		

**C お弁当の主食づくりについて**

問4 主食をあなた自身で作りましたか。あてはまるものを1つ選んで番号に○印をつけてください。

1 はい (炊飯をする、サンドウィッチをつくる、麺をゆでる などを行った)
2 いいえ。しかし、手伝いはしました
3 全く作っていません。また、手伝ってもいません

**D お弁当のおかずづくりについて**

問5 おかずをあなた自身で作りましたか。あてはまるものを1つ選んで番号に○印をつけてください。

1 はい (切る、炒める、味付けをする などすべて行った)
2 いいえ。しかし、手伝いはしました
3 全く作っていません。また、手伝ってもいません

